

【大綱6】

みんなが主体的に学び、 生きがいを持って 活躍できるまちづくり

(教育、生涯学習・文化、スポーツ・レクリエーションなど)

- 6-1 生きる力を育む学校教育を推進する
- 6-2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する
- 6-3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに
親しめる環境をつくる

6-1 生きる力を育む学校教育を推進する

めざす姿(5年後の状態)

自ら夢や希望、目標を持って、自立して生きていくための 基礎となる確かな学力、健康な心と体が育まれている

本市の未来を担っていく子どもたちが、変化の激しい社会において自らの夢や希望、目標に向かって粘り強く学び、生きる力の基盤を育めるよう、基礎的・基本的な知識・技能や、答えが一つに定まらない問題に自ら答えを見いだしていく思考力・判断力・表現力、さらには、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度など、発達段階に応じた確かな学力の育成を目指します。

また、他者を思いやる心や規範意識、自他の生命尊重、自己肯定感など子どもが健やかに成長するために必要な豊かな心を育むとともに、生涯にわたって健康な生活が送れるよう保健教育や食育の推進、運動習慣の確立など、健やかな体の育成を目指します。

めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
全国および埼玉県学力・学習状況調査において、平均正答率を上回った教科数	17教科	18教科
【説明】 全国学力・学習状況調査については全国平均正答率を、埼玉県学力・学習状況調査については全県平均正答率を全18教科*で上回ることを目標とする。		
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合	小学校 89.7% 中学校 87.7%	小学校 95% 中学校 90%
【説明】 児童生徒を対象としたアンケート調査で、学校に行くのは楽しいと思うと回答した児童生徒の割合について、小学校95%、中学校90%を目標とする。		

関連計画

- 第4期越谷市教育振興基本計画(令和8～12年度)
- 第3次越谷市人権施策推進指針(令和3～12年度)
- 第1期越谷市こども計画(令和7～11年度)
- 越谷市いじめ防止基本方針(平成26年度～)

※ 18教科
全国の小6国語算数、中3国語数学の4教科と県の小4～6国語算数、中1～3国語数学、中2・3英語の14教科の合計。

※ 外国人市民
日本国籍以外の国籍を有する市民、無国籍の市民、国籍が不明の市民、日本国籍を有し外国に文化的背景などのルーツを持つ市民。



現状

- 変化の激しい社会において、さまざまな課題に対し柔軟かつ創造的に対応できる力を育むため、小中学校9年間の学びの連続性や「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業づくり・心づくり・規範づくりを行うなど、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組んでいます。
- 外国人市民[※]の増加や家庭を取り巻く環境の変化等に伴い、一人ひとりの状況に応じた教育支援の重要性が増しています。
- 情報化社会に適応できる力の育成を図るため、タブレット等を活用した授業を実施するとともに、スマートフォン等の機器およびSNSを正しく活用できるよう情報モラル教育の推進に取り組んでいます。
- 自己肯定感を高める生徒指導体制の充実や多様なニーズに対応できる教育相談体制の充実など、豊かな心の育成に努めています。
- 継続的に質の高い指導を行うため、安全・安心で快適な学習環境の整備や教職員の資質向上など、質の高い教育環境づくりを進めています。

課題

- 複雑で予測困難な社会であるからこそ、幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心、健やかな体等の育成とともに、主体的な問題発見・解決能力や英語も含めたコミュニケーション能力の育成が重要とされています。
- すべての児童生徒がその意欲や能力に応じた力を発揮するためには、特別支援教育の推進、多様な就学機会の確保や日本語を母語としない児童生徒への支援など多様なニーズに対応する必要があります。
- 自立して生きる力を身に付けるためには、質の高い教育環境の継続的な整備が必要であり、児童生徒が快適に学習できる環境の整備や指導力豊かな教職員の育成が重要となっています。
- 学校における教育活動が多岐にわたり、教職員への負担増加が指摘されているなか、学校の運営体制を改善し、学校における教職員の働き方改革の推進や、保護者・地域と連携した地域全体でこどもを見守り育てる学校づくりなど学校教育の水準を持続発展させる取組みが必要とされています。
- 老朽化が進む学校教育施設について、長寿命化を図るとともに、将来のあり方の検討を進める必要があります。

▶▶▶ 施策の方向性

611 9年間を見通した越谷教育を推進する

● 特色ある教育課程の推進

自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造することの育成を目指し、小中一貫教育※を通して、カリキュラム・マネジメント※の確立による特色ある教育課程を推進します。

● 小中一貫型小中学校の整備と将来を見据えた学校教育施設の検討

小中一貫教育のさらなる推進のため、教育環境の整備充実に取り組みます。また、将来の児童生徒数の推移等を勘案しながら今後の学校教育施設のあり方について検討します。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
授業で学んだことを、生活場面や他の学習に生かしている児童生徒の割合	小学校 92.7% 中学校 87.8%	小学校 95% 中学校 91%
[説明] 児童生徒を対象としたアンケート調査で、授業で学んだことを、生活場面や他の学習に生かしていると回答した児童生徒の割合について、小学校95%、中学校91%を目標とする。		
小中一貫型小中学校の整備校数	—	累計3学園
[説明] 小中一貫型小中学校の整備について、累計3学園を目標とする。		

612 確かな学力を育む

● 一人ひとりの学力を伸ばす教育の推進

小中一貫教育により、9年間の学びの連続性を確保し、また、「主体的・対話的で深い学び」の充実により、わくわく感のある授業を実践することで、確かな学力を育みます。

● 新しい時代に求められる資質・能力の育成

ICT※を活用した教育の充実を図るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるため、ALT※を効果的に配置し、英語教育の推進に取り組みます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
授業では、「考えてみたい」「やってみたい」と感じ、進んで課題に取り組んでいる児童生徒の割合	小学校 93.5% 中学校 88.5%	小学校 95% 中学校 91%
[説明] 児童生徒を対象としたアンケート調査で、授業で「考えてみたい」「やってみたい」と感じ、進んで課題に取り組んだと回答した児童生徒の割合について、小学校95%、中学校91%を目標とする。		
児童生徒がICTを活用して学びを深めることを指導できる教員の割合	91.8%	100%
[説明] 教員を対象としたアンケート調査で、児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるようにコンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導できると回答した教員の割合について、100%を目標とする。		

613 豊かな心を育む

● 豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実

社会、自然等と接する体験活動や道徳教育を推進し、生きる力の基礎となる豊かな心を育みます。

● 教育相談体制の充実といじめ防止対策の推進

いじめを含めた生徒指導上の諸問題については、未然防止、早期発見、早期解消・再発防止を目指し、教育相談体制の充実を図ります。

● 学校教育における人権教育の推進

部落差別やインターネットによる人権侵害などに対する人権教育や情報モラル教育を推進し、人権問題を主体的に考え行動する児童生徒を育みます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
自分には、よいところがあると感じている児童生徒の割合	小学校 89.3% 中学校 86.4%	小学校 95% 中学校 90%
[説明] 児童生徒を対象としたアンケート調査で、自分にはよいところがあると思うと回答した児童生徒の割合について、小学校95%、中学校90%を目標とする。		
人権教育研修会等の実施回数	年間9回	年間9回
[説明] 教職員の指導力向上を目的とした各種研修の実施回数について、年間9回を維持することを目標とする。		



小学校での英語教育



心の教育研修会

※ 小中一貫教育

学力向上、自己肯定感の高揚、学校生活充実感の高揚を目的として、義務教育9年間を見通した小学校と中学校の学びの連続性・一貫性を重視した教育。

※ カリキュラム・マネジメント

各学校において、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程(カリキュラム)の編成、実施、評価、改善を計画的かつ組織的に行い、学校教育活動の質の向上を図っていくこと。

※ ICT

Information and Communication Technology(情報通信技術)の略。従来から使われていたIT(Information Technology)に替わり、通信ネットワークにより情報が流通することの重要性を意識して使用される。

※ ALT

Assistant Language Teacher(語学指導助手)の略。日本人外国語担当教職員の助手として職務に従事する人。

施策の方向性

614 健やかな体を育む

● 健康教育の充実

健康教育の充実を図り、児童生徒の体力向上に努めるとともに、健康管理の大切さを認識し、健康の保持増進に主体的に取り組む児童生徒を育みます。

● 学校給食の充実と食育の推進

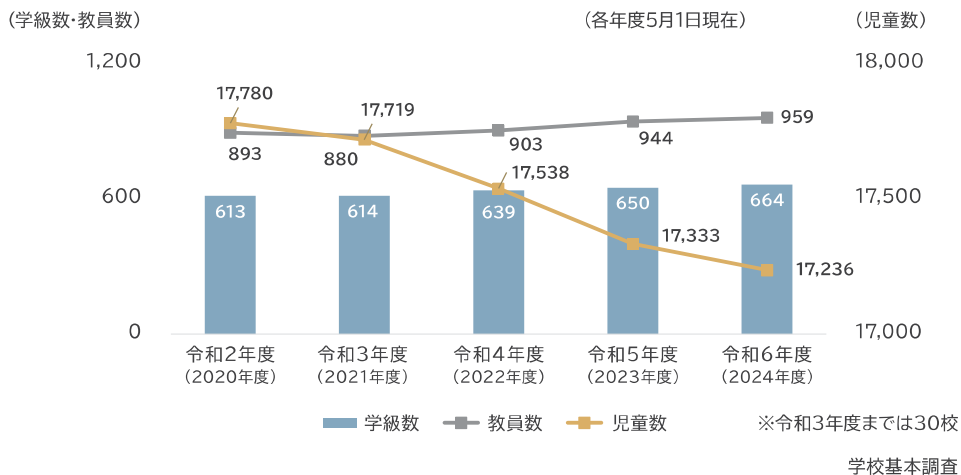
児童生徒の健全な心身を育むため、安全で安心な給食を提供するとともに、栄養教諭等による食に関する指導を充実するなど、食育の推進を図ります。

● 学校給食施設の維持管理・整備

学校給食を安定して継続的に提供するため、学校給食センターの保守点検や修繕等を行うとともに、老朽化が進む学校給食施設の整備について検討します。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
体力テストの5段階絶対評価で上位3段階の児童生徒の割合	小学校 80.2% 中学校 80.6%	小学校 86% 中学校 89%
[説明] 各学校で実施している体力テストの各種目の記録を得点化し、その合計を5段階絶対評価した上位3段階(A~C)に入る割合について、小学校86%、中学校89%を目標とする。		
栄養教諭等による食に関する指導を実施したクラスの割合	98.6%	100%
[説明] 栄養教諭等による食に関する指導(「給食時間の指導」または「チーム・ティーチング(共同授業)」)を実施したクラスの割合について、100%を目標とする。		

市内小学校(29校)の児童数等



615 自立する力を育む

● 主体的に社会の形成に参画する力の育成

こどもたちが生涯にわたって自立して生きていけるよう、進路指導・キャリア教育、環境教育や安全教育を推進し、主体的に社会に参画する力を育成します。

● 障がいのあるこどもへの支援と指導の充実

児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を行うため、「インクルーシブ教育システム」構築に向けた特別支援教育の推進に取り組みます。

● 不登校児童生徒への支援

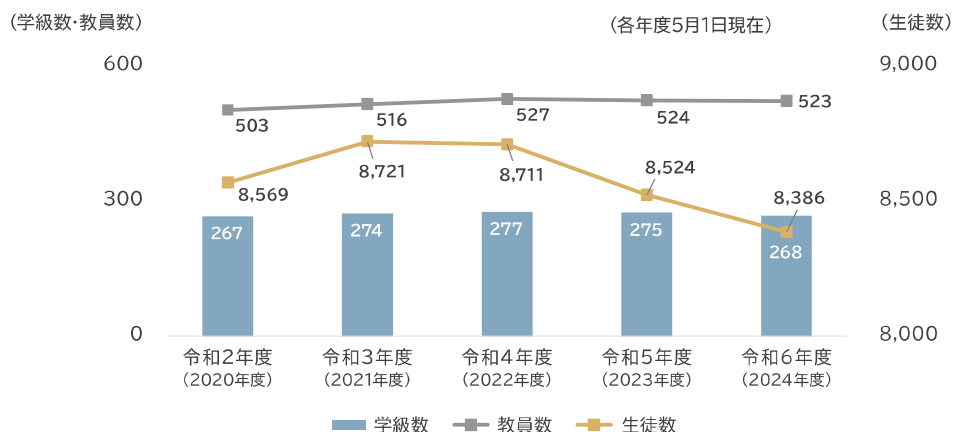
不登校の未然防止、早期発見、早期対応を図るため、家庭・学校等と連携した総合的な対策、教育相談の充実などに取り組むほか、不登校児童生徒の教育機会の確保に努めます。

● 一人ひとりの状況に応じた教育支援

経済的に困難であっても就学できる機会の提供や就学に必要な援助を行うとともに、日本語を母語としない児童生徒への日本語学習の機会の提供に取り組みます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
特別支援学級設置率	95.5%	100%
[説明] 市内小中学校の特別支援学級の設置割合について、100%を目標とする。		
不登校児童生徒が校内外の機関等で相談・指導を受けた割合(つながり率)	66.3%	85%
[説明] 教育センターや養護教諭、スクールカウンセラーなどによる専門的な相談・指導を受けた公立小・中学校の不登校児童生徒の割合について、85%を目標とする。		

市内中学校(15校)の生徒数等



学校基本調査

施策の方向性

616 質の高い教育環境を整備する

● 教職員の資質・能力の向上

教職員の資質や能力の向上を図るため、教職員研修の充実に取り組むとともに、教職員の健康の維持・管理に努めます。

● 学校の組織運営の改善

教職員の働き方改革の推進や、保護者・地域と連携した地域全体でこどもを見守り育てる学校づくりなどに取り組みます。

● 安全・安心で快適な学習環境の整備・充実

児童生徒が安全・安心で快適に学校生活が送れるよう、学校施設の長寿命化をはじめとした整備・改修に計画的に取り組めます。また、学習で使用するICT機器等の整備充実を図るとともに、安定したネットワーク環境の整備に取り組めます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
教職員の研修に対する満足度	96.9%	100%

[説明] 教職員を対象としたアンケート調査で、研修の内容が分かりやすかったと回答した教職員の割合について、100%を目標とする。



学習に利用するタブレット端末



教職員向けの研修



小中一貫教育

従来の日本の義務教育制度は、小学校6年間、中学校3年間の「6-3制」が一般的でした。しかし、小学校から中学校に上がる際の学習・生活環境の急激な変化に適応できない、いわゆる「中一ギャップ」が制度の課題として指摘されていました。さらに、近年の少子化を背景とした学校統廃合が進むにつれ、子どもたちは全く新しい環境での中学生生活を余儀なくされることも少なくなく、この「中一ギャップ」が全国的に顕在化していくことが懸念されていました。

そこで、文部科学省をはじめ、全国各地の教育委員会は、この「中一ギャップ」の解消や、児童生徒の心身の発達段階に応じた教育を提供するため、小学校と中学校を一体的に捉え、9年間を通した教育課程を編成する「小中一貫教育」を目指すこととしています。

越谷市では、平成27年度から「小中一貫教育」に取り組んできました。学習指導要領に則り、市内全小中学校を中学校区の15ブロックに分け、各中学校区が目指す児童生徒像、重点目標を設定し共有することで、小学校6年間、中学校3年間を通して一貫した教育の実現を図っています。

越谷の子どもを9年間で育てる小中一貫教育



6-2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する

めざす姿(5年後の状態)

あらゆる世代の学びの機会を充実し、だれもが生涯にわたって豊かに生きることができる環境が整備されている

こどもから高齢者まで、それぞれの興味や関心に応じて生涯にわたって学ぶことができるよう、各種学級・講座などの学習機会の充実、図書館サービスの充実、芸術文化活動の推進、文化財の調査・保存・活用などに取り組み、いつでも、どこでも、だれもが主体的・継続的に学習活動を行える環境を目指します。

また、学びの成果を発表できる機会を充実し、その成果を地域社会に活かすことができる環境を整えることにより、市民のさらなる学習意欲の向上や地域参加を図り、一人ひとりが学習活動を通して生きがいを感じ、人生をより豊かにできる社会を目指します。

めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
市が主催する各種学級・講座の参加者数	年間26,844人	年間30,000人
[説明] 市が主催する各種学級・講座の参加者について、年間30,000人を目標とする。		
市が主催する芸術文化活動等における出品者数・参加者数・来場者数	年間15,549人	年間16,000人
[説明] 文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」、越谷市美術展覧会、越谷市民文化祭など市主催9事業における出品者、参加者および来場者について、年間16,000人を目標とする。		

関連計画

- 第4期越谷市教育振興基本計画(令和8～12年度)
- 第3次越谷市健康づくり行動計画・食育推進計画「いきいき越谷21」(令和6～17年度)
- 第1期越谷市こども計画(令和7～11年度)
- 第6次越谷市障がい者計画(令和8～12年度)
- 第3次越谷市人権施策推進指針(令和3～12年度)



現状

- 人生をより豊かなものとするためには、生涯にわたって自らの能力を高めるとともに、学びの成果を適切に活かし活躍できるようにすることが必要とされています。
- 多様化・高度化する学習ニーズへの的確な対応と生涯にわたって学習できる環境づくりを目指し、公民館や科学技術体験センター等を拠点として一人ひとりが主体的に学べる機会の充実に取り組んでいます。
- 図書館については、より身近で利便性の高いサービスを提供するため、電子書籍を含めた蔵書の充実や図書館システムの改善を図るとともに、本館、北部・南部・中央図書室や移動図書館による地域に密着したサービスの展開に取り組んでいます。
- 芸術文化については、芸術文化活動の推進を図るため、越谷市民文化祭や越谷市美術展覧会等を開催するなど、成果を発表できる機会の充実に努めています。
- 地域文化や文化財については、地域の歴史や文化を理解するうえで貴重な資源であり、特色ある伝統文化の振興や文化財の調査・保存・活用に取り組んでいます。

課題

- 人生100年時代をより豊かに生きるためには、生涯にわたって自ら学習し、学びの成果を地域社会の課題解決につなげていくことが重要であり、こどもから高齢者まで幅広い世代が継続的に学習できる機会を提供するとともに、学習した成果を地域社会に活かしていく環境づくりが必要とされています。
- 図書館については、電子書籍を含め計画的な蔵書の充実やさらなるシステムの改善など図書館機能の充実を図るとともに、こどもが読書に親しむ機会の提供など、市民に親しまれ、役に立つ図書館サービスの充実が必要です。また、各図書室の分館化に向けた検討など、図書館機能の強化に取り組む必要があります。
- 芸術文化については、市民に心の豊かさをもたらすため、こどもから高齢者まで、障がいの有無や国籍にかかわらず芸術文化に触れ、親しめることが重要であり、活動機会や芸術文化に接する機会の充実など、自主的に文化活動に参加できる環境づくりが求められています。
- 地域文化や文化財については、地域の歴史や文化の正しい理解のため欠くことができないものであると同時に、将来における文化の向上・発展の基礎をなすものであることから、次世代へ継承するとともに、調査・保存・活用を通じ市民理解を深めることができる環境づくりが求められています。

施策の方向性

621 生涯にわたる学びを進める

● 生涯学習活動の充実と学習成果の活用

市民が主体的に生涯学習活動に取り組むことができるよう、関係団体と連携した推進体制の充実を図るとともに、ライフステージ・ライフスタイルに応じた各種学級・講座の開催や特色ある科学技術体験事業の実施など、学習活動の充実に努めます。

● 社会教育における人権教育の推進

人権教育については、部落差別をはじめ、外国人や性的少数者等に対する偏見・差別、インターネットによる人権侵害など、さまざまな人権問題※についての正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図ります。

● 図書館サービスの充実

図書館では、計画的に蔵書を整備するとともに、より多くの市民が図書館サービスを利用できるよう、子どもが読書を楽しむ機会の提供や電子書籍等の充実を図ります。また、各図書室の分館化に向けた検討など、図書館機能の強化に取り組みます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
生涯学習関係団体と連携した事業数	年間89事業	年間95事業
[説明] 生涯学習関係団体と連携した事業について、年間95事業を目標とする。		
蔵書回転率	203.7%	260%
[説明] 図書館等の蔵書の回転率について、260%を目標とする。 ここでいう蔵書回転率とは、貸出延べ冊数を蔵書冊数で割った値を示したものの。		
科学講座における新規事業の割合	25.5%	30%
[説明] 科学講座における新規事業の割合について、30%を目標とする。		



図書館での夏休み子ども読書クラブ

※ さまざまな人権問題

①部落差別(同和問題) ②女性 ③子ども ④高齢者 ⑤障がい者 ⑥アイヌの人々 ⑦外国人 ⑧感染症患者等 ⑨刑を終えて出所した人 ⑩犯罪被害者等 ⑪インターネットによる人権侵害 ⑫北朝鮮当局によって拉致された被害者等 ⑬性的少数者 ⑭ホームレス ⑮人身取引 ⑯災害に起因する人権問題 ⑰自殺者とその遺族 ⑱ゲノム情報(遺伝情報) 等

622 文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する

● 芸術文化活動の推進

越谷市民文化祭の開催や文化総合誌「川のあるまち－越谷文化」の発行など、こどもから高齢者まで、障がいの有無や国籍にかかわらず市民だれもが自由に参加できる芸術文化事業を実施するなど発表および鑑賞の機会を提供し、文化団体および市民の自主的な活動を支援します。

● 特色ある伝統文化の振興

能公演や能楽体験事業、郷土芸能体験教室の開催など、伝統文化の鑑賞・体験の機会を提供し、特色ある地域文化の振興と普及に努めます。

● 文化財の調査・保存・活用

文化財の調査・保存・活用事業に努めながら市史編さん事業を見据えるとともに、事業の拠点となる郷土資料館のあり方について検討します。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
こしがや能楽堂における主催事業の来場者数	年間2,448人	年間2,500人
[説明] こしがや能楽堂にて実施する主催事業の来場者について、年間2,500人を目標とする。		
市が主催する芸術文化活動等における広報回数	年間63回	年間65回
[説明] 文化総合誌「川のあるまち－越谷文化」、越谷市美術展覧会、越谷市民文化祭など、市が主催する芸術文化活動等の主な事業(9事業)における広報回数について、年間65回を目標とする。		
文化財を活用する事業への参加者数	年間12,851人	年間15,000人
[説明] 文化財を知ってもらうために実施する事業への参加者について、年間15,000人を目標とする。		



こしがや能楽堂における主催事業

めざす姿(5年後の状態)

いつでも、どこでも、だれもが生涯にわたり、スポーツ・レクリエーション活動に親しみ、自分らしく、いきいきとした、豊かな生活を送る環境が整備されている

スポーツ・レクリエーション活動を通して市民の生きがいづくり、健康の維持・向上、健康寿命※の延伸など、市民が健康で明るい生活を送ることができ、多様なライフスタイルにあわせたスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる環境を目指します。

また、身近な場所でプロスポーツ等を観戦する機会を充実させるとともに、活動団体への支援や指導者等の人材確保など、スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の整備を目指します。

めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
スポーツ・レクリエーション活動を週1回以上行う成人市民の割合	43.9%	50%
[説明] 市政世論調査における「スポーツ・レクリエーション活動の実施状況」という項目で、「週に1回以上」活動を行ったと回答した割合について、50%を目標とする。		
主要体育施設の利用者満足度	97.1%	100%
[説明] 総合体育館、越谷市民球場、しらこぼと運動公園競技場の利用者アンケートの総合評価(満足以上の平均割合)について、100%を目標とする。		

関連計画

- 第4期越谷市教育振興基本計画(令和8～12年度)
- 第3次越谷市健康づくり行動計画・食育推進計画「いきいき越谷21」(令和6～17年度)
- 第1期越谷市こども計画(令和7～11年度)
- 第6次越谷市障がい者計画(令和8～12年度)

※ 健康寿命

WHO(世界保健機関)が提唱した、「平均寿命から寝たきりや認知症など介護状態の期間を差し引いた期間」。本市では、埼玉県と同様に「65歳に達した方が健康で自立した生活を送ることができる期間」、具体的には「要介護2以上になるまでの期間」を「65歳健康寿命」として算出。



現状

- 市民が多様なライフスタイルにあわせてスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう、活動機会に関する情報提供や活動環境の整備に努めるとともに、こどもや高齢者、障がい者が気軽に体を動かすことができるよう、市民の生きがいづくりや健康・体力づくりの支援など活動機会の充実に取り組んでいます。
- スポーツに対する興味や関心を高めるため、身近な場所でプロスポーツ等を観戦できる機会の提供に取り組んでいます。
- 市民のスポーツ・レクリエーション活動を支えるため、スポーツリーダーバンクへの登録・派遣やスポーツボランティアの募集など、活動を支援する体制づくりに努めています。
- 身近な地域で気軽にスポーツ・レクリエーション活動ができるよう、総合体育館をはじめとした体育施設の整備や適切な管理に取り組んでいます。

課題

- 社会環境の変化や生活様式の多様化などにより、市民のライフスタイルは変化し、スポーツ・レクリエーション活動に対するニーズも多様化、高度化しています。だれもが身近な場所でスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、楽しみ、参加できる環境をつくるとともに、安全・安心に利用できるよう老朽化が進む体育施設の長寿命化など、計画的な整備と適切な管理運営を行う必要があります。
- スポーツに対する興味や関心を高めるため、プロスポーツチームへの支援や観戦機会の充実が求められています。
- 高齢化の進行やこどもの体力低下が懸念され、スポーツ・レクリエーション活動の役割が一層重要となるなか、こどもたちの健全な育成、成人の健康維持、高齢者や障がい者の生きがいづくりなど、一人ひとりにあわせた健康・体力づくりの支援が必要です。
- 「するスポーツ」「観るスポーツ」だけでなく「支えるスポーツ」にも目を向け、活動団体への支援や指導者等の確保・育成など、スポーツ・レクリエーション活動を支える体制の充実が必要です。

▶▶▶ 施策の方向性

631 健康ライフスタイルづくりを支援する

● 活動機会の充実

市民一人ひとりが年齢や心身の状況にあわせて無理なくスポーツ・レクリエーション活動に参加し、運動習慣を身に付けることは、市民の健康増進や生きがいづくりにつながることから、多様なライフスタイルにあわせたスポーツ・レクリエーション活動環境や活動機会の充実に努めます。

● スポーツ観戦機会の充実

市民のスポーツに対する興味や関心を高めるため、プロスポーツ等の観戦機会の充実に取り組みます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
スポーツ教室等の参加者数	年間8,737人	年間12,000人
[説明] 各種スポーツ教室等の参加者数について、年間12,000人を目標とする。		

632 スポーツ・レクリエーション活動を支援する

● 活動団体への支援と指導者等の確保・育成

市民が生涯にわたりスポーツ・レクリエーション活動に親しめるよう、活動団体への支援や指導者等の確保・育成に取り組みます。

● スポーツ・レクリエーション施設の維持管理・改修

活動拠点となる施設の適切な維持管理と計画的な改修に取り組みます。

指標名	現状値(令和6年度)	目標値(令和12年度)
スポーツリーダーバンク登録者数	累計121人	累計150人
[説明] スポーツ・レクリエーション活動の指導者であり、各種スポーツ大会の担い手となる人材の登録者について、累計150人を目標とする。		
体育館の利用者数	年間541,195人	年間557,500人
[説明] 市内における体育館の利用者について、年間557,500人を目標とする。		

市民から見た“越谷”～市民懇談会・若者まちづくり懇談会より～

めざす姿

タブレット端末の導入など、時代の変化にあわせることが重要



若者まちづくり懇談会（中学生）

文化や歴史を知ること、さらに越谷に対して興味がでると思う



若者まちづくり懇談会（中学生）

スポーツに触れる機会を充実させ、いきいきと健康に過ごせる地域にしたい



若者まちづくり懇談会（高校生・大学生）

現状・課題

スポーツ教室等のイベントや企画が開催されている



若者まちづくり懇談会（高校生・大学生）

子どもたちが主体的に学べる環境を整えてほしい



若者まちづくり懇談会（高校生・大学生）

祭りなどの開催に向け、関係者が一丸となって取り組んでいる



市民懇談会

もっとスポーツの試合ができる環境がほしい



若者まちづくり懇談会（中学生）

越谷の文化や歴史に誇りを感じている人がたくさんいる。若い世代にも地域の伝統文化を知ってほしい



市民懇談会



若者まちづくり懇談会＜中学生の部＞



若者まちづくり懇談会＜高校生・大学生の部＞

